

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 71 号（令和 5 年 4 月発行）

令和 5 年は、3 月に第 1 回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

三木隆議員



主な質問項目

- ・四日市港におけるブルーカーボンの今後の取組について
- ・四日市港内の水質調査について
- ・ブルーカーボンの基本の方針について

- 四日市港内の水質調査について、藻類の栄養源である窒素やリンの水質調査を、県や四日市市の調査も含めて、どのように調査を行っているのか。
- 三重県及び四日市市は、水質汚濁防止法に基づき、環境基準の達成状況の確認のため水質調査を、三重県が 4 か所を毎月 1 回、四日市市が三重県の地点を補足する補助地点 3 か所を 3 か月ごとに 1 回の頻度で実施している。また、管理組合では、三重県及び四日市市の 7 か所以外の 5 か所において、毎月 1 回の頻度で実施している。各機関の令和 3 年度の窒素やリンの水質調査結果は、全地点で環境基準を満たしていることを確認している。
- 管理組合におけるブルーカーボンへの取組の今後の方針は。
- 4 年度策定の「カーボンニュートラルポート形成計画」などに「ブルーカーボン生態系の活用」を位置づけるなど、一層積極的に検討を進めていく。4 年度のブルーカーボンの取組としては、専門家の指導のもと、藻類の成長に重要とされる海水の温度、塩分濃度、照度を確認するための水質調査を実施した。この水質調査の結果、水温や照度の点で藻類が生育するには厳しい水質状況であるものの、比較的生命力の強いワカメについて繁茂の可能性があることが確認できたことから、来年度はワカメの成長に効果があるとされるアミノ酸を含んだ環境活性コンクリートパネルを使った小規模実証実験を行いたいと考えている。

倉本崇弘議員



主な質問項目

- ・四日市・いなばポートラインの整備効果と今後の方向性について
- ・四日市・いなばポートラインの整備効果について
- ・四日市・いなばポートラインの南側への延伸について

- 四日市・いなばポートラインの開通により、どのような効果があったか。
- 国が実施した直近の分析では、みえ川越インターチェンジから霞ヶ浦北埠頭コンテナターミナルまでの所要時間は、国道 23 号経由の約 11 分に比べ四日市・いなばポートライン経由では約 5 分と、約 6 分の短縮が図られている。国は令和 4 年度に便益の分析を行い、年間約 27 億円もの便益が発生していると分析している。
- 各コンビナート間の交通アクセスの連携を強めることによって、四日市港のさらなるポテンシャル向上につながっていくと思われる。四日市・いなばポートラインの南側延伸の検討についてどのように考えているか。
- 令和 5 年度からは、四日市港 CNP 形成計画の内容も踏まえ、新たな四日市港長期構想の策定や四日市港港湾計画の改訂に向けた検討を進めることとしており、この一連の作業の中で、南側延伸道路についても具体化に向け検討していきたいと考えている。いずれにしても、当該道路については、物流環境が改善され経済効果が期待される一方、多くの費用を要することに加え、用地の確保や船舶の航行への影響、環境対策等様々なハードルが存在していることから、国ともしっかりと協議して、港周辺で整備等が進む北勢バイパス等の道路の整備効果も見極めながら、当該道路整備による費用対効果も検証しつつ、検討を進めたいと考えている。
- 整備効果は非常に高いと思っているので、積極的な検討をお願いしたい。